

令和元年度 農林水産業版タウンミーティング（農業版：浪岡地区）会議概要

日 時：令和元年8月8日（木）18：00～19：30

場 所：市役所浪岡庁舎 2階 大会議室

参加者数：13名

市側出席者：市長、浪岡区長、農林水産部長、農林水産部次長、農業政策課長、あおもり産品支援課長、農業振興センター所長、農地林務課長

■昨年度いただいたご意見への対応状況

⇒ 配布資料のとおり

■主なご意見・ご要望等

○これからのりんご産業を考える上でも、現状の把握と過去からの流れを知りたい。10年前の栽培面積と就業農家数、現在の状態、行政から見た10年後の見通しを教えてください。

⇒ 農業就業者の減少や高齢化、農地面積の減少等に伴い、熟練農業者の高度な生産技術やノウハウが急速に失われ、生産性の維持や付加価値の高い農産物の安定的な生産が困難になる恐れがあるとされている。

市では「青森市総合計画前期基本計画」を策定したところであり、その中で、「しごと創り」の一環として「農林水産業の振興」を進めていくこととしており、新規就農者等の担い手の育成・確保、経営規模拡大に意欲のある担い手への農地の利用集積の促進、ロボット技術等の先進技術を取り入れたスマート農業の導入による省力化など、様々な取組を行い、本市りんご生産の維持・発展に努めていく。

○農道整備は、農業振興や物流・観光振興に必要である。昨年、野沢地区での農道整備について説明会があった。その後の計画の進行状況をお聞きしたい。

⇒ 県営野沢地区畑地帯総合整備事業の第三期事業については、昨年度、樽沢地区と女鹿沢地区、両地区の共同防除組合から整備内容等について意見を伺っている。

また、今年度は現況が森林の箇所、未耕作地、相続未登記となっている用地などを調査し事業区域を決めたうえで、国の補助事業の要件である費用対効果を満たす整備内容について検討することとしている。市としては、同事業について今後とも地元関係者と連携しながら、事業化に向け鋭意取り組んでいく。

○バサラコーンについてブランドとして周知されてきているものの、栽培面積が増えず購入したくても手に入らないといった声がきこえている。産地化に向けた生産面の支援を行うべきではないか。

⇒ 市や農業者団体等で構成されている青森市地域農業再生協議会では、バサラコーンを転作の重点作物として位置づけ、産地交付金を交付しており、本年度から、作付面積の拡大に向けて10アール当たり3万5千円から4万円に増額することで現在国と協議している。

また、青森農業協同組合では、栽培マニュアルに基づく指導の徹底により品質を維持していくためバサラコーン現地講習会を開催しており、市としても、今後とも引き続き青森農業協同組合など関係機関と連携しながらバサラコーンの産地化に向けて取り組んでいく。